

シンポジウム「南極からみえる地球環境」

7月1日(土)、13:30~17:30にかけてシンポジウム「南極からみえる地球環境」を開催しました。会場は法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲート G403 教室でした。新しく建造された富士見ゲートでは最新の設備が整っており、参加された皆様にとって法政大学発展の一端を感じられたかもしれません。

シンポジウムは司会の前杵(法政大学文学部)から開会の挨拶と簡単な趣旨説明がなされた後、中山由美氏(朝日新聞社)から「極地から地球がみえる」、宮本仁美氏(気象庁)から「南極の気象と地球環境」、伊村 智先生(国立極地研究所)から「南極の生物と地球環境」、三浦英樹先生(国立極地研究所)から「南極の地形と地球環境」の講演をいただきました。その後、澤柿教伸先生(法政大学社会学部)から南極観測全体についてのコメントと閉会の挨拶を頂きました。

講演内容は恐らく「法政地理」の次号に掲載されると思いますので、詳しくはそちらをご覧くださいと思います。ここで簡単に紹介するとすれば、中山由美氏(朝日新聞社)からは、記者としてご自身で収められた様々な南極の写真や映像を南極から視えてくる地球環境の変化の解説と併せて紹介して頂きました。宮本仁美氏(気象庁)からは、南極における気象観測の意義とその成果、また観測中の映像などを紹介して頂きました。伊村 智先生(国立極地研究所)からは、南極に住む生物の特徴と生態系のメカニズムを紹介して頂きました。三浦英樹先生(国立極地研究所)からは、南極の様々な地形形成プロセスについて解説して頂き、また実際の調査中の様子や今後の課題について紹介して頂きました。澤柿教伸先生(法政大学社会学部)からも、南極観測隊参加についてのお話をして頂き、学生たちの南極観測に対する熱も上がったかと思えます。参加者は121名と、多くの方に参加して頂きました。会場では、知的好奇心揺さぶられる発表ばかりで、終始真剣なまなざし、時には笑い声に包まれる共に、発表が終わるごとに多くの質問が飛び交いました。その後開かれた懇親会でも、予想をはるかに上回る人たちの参加が得られ、夜遅くまで楽しい時間を過ごすことができました。

ご講演、並びにコメントをいただいた5人の先生、そして会場に足を運び、積極的に議論にご参加いただいた多くの会員諸氏に感謝する次第です。

(前杵英明 法政大学)



写真1 地球環境や極地での生活を紹介する朝日新聞社の中山由美氏



写真2 南極の気象・気候の講演をする気象庁の宮本仁美氏



写真3 南極の生物の講演をする国立極地研究所の伊村 智氏



写真4 100人を超える参加者を集めた今回の例会



写真5 南極の地学と氷床変動について講演する国立極地研究所の三浦英樹氏



写真6 極地研究の今後を展望する法政大学社会学部の澤柿教伸氏